

## 令和6年度第1回都市機能の整った快適なまち推進懇話会概要

日 時 令和6年7月8日（月）

10時00分～12時00分

場 所 逗子市役所5階第4会議室

### ・議題

- （1）都市機能の整った快適なまち推進プランの事業進行管理表について
- （2）その他

### ・出席者

|          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 武藤浩二副座長  | 田中克己メンバー | 木谷和三郎メンバー |
| 関 基治メンバー | 四宮明彦メンバー | 黒川恭祐メンバー  |
| 青柳大典メンバー | 船田博士メンバー |           |

### ・欠席者

座長（知識経験を有する者）は改選中のため欠席  
石井達郎メンバーおよび大塚広美メンバーは都合により欠席

### ・事務局

須田環境都市部担当部長     津田都市整備課長  
加藤都市整備課副主幹（土木管理係長事務取扱）     津金都市整備係長  
安斉都市整備課主事

### ・傍聴者    0名

### ・記録者    安斉

## 1. 開会

事務局より、令和6年度第1回都市機能の整った快適なまち推進懇話会の開催を宣言した。  
また、開催にあたり須田担当部長より挨拶をした。

## 2. メンバー紹介

出席メンバー及び事務局の自己紹介を行った。

## 3. 都市機能の整った快適なまち推進懇話会について

事務局より、本懇話会の趣旨及び役割について説明を行った。また、昨年度改定したプランは令和6年度から令和11年度までが計画期間となるため本来は来年度からの進捗管理となるが、ほとんどの事業が昨年度までもあるもののため、現在の状況確認も含め、本日はプランの進捗状況を評価してもらいたい旨説明を行った。

## 4. 議題

議題に入る前に昨年度から座長をお願いしていた社会空間研究所 佐藤メンバーの座が欠けてしまったため、運営要綱に基づき副座長である沼間住民協 武藤メンバーに職務の代理をしてもらおうと決定した。以下、副座長により会議進行をした。

### 議題

#### (1) 都市機能の整った快適なまち推進プランの事業進行管理表について

副座長より進捗状況の評価についての説明。重点事業を先に議論していく旨を説明した。

(質疑応答・意見)

#### 基本目標(1): 都市環境の改善

##### 狭あい道路整備事業(重点事業)

【事務局】補足説明。この事業は平成12年からスタートしたが、進捗状況が芳しくなく平成20年頃市が推進する路線を決めて取り組み、20件の関係住民に声掛けを行ったが、市主導では協力を得られなかったことから、現在の申請を受けて補償金を交付する形になった。建築や開発行為に伴う各課協議の際、この事業について説明し寄附を促してい

る。

【田宮メンバー】まちづくり景観課と連携を取っているのは良いと思う。方法としては建築や開発のタイミングでの声掛けや大々的な法整備しかないので、声掛けの仕方を工夫したら良いのではないかなと思う。

【田中メンバー】セットバックして、寄附していない所の固定資産税は非課税になるのか。

【事務局】課税課に申請は必要となるが、公衆用道路という扱いになれば減免になる。寄附されていなくても誰でも通れる道路形状になっていれば公衆用道路とみなせるが、プランターや自転車を置いてしまって道路扱いにならないケースも多々ある。そこも課題である。

【武藤メンバー】2029（令和 11）年度の目標が申請係数 308 件、市道の狭あい道路の割合が 65%以下となっているが根拠はなにか。2023（令和 5）年度末の現状が 65.46%なので目標が控えめな印象を受ける。後日でも良いので目標の根拠を示して欲しい。

### 崖地対策事業（重点事業）

【関メンバー】防災工事が完了するとコンクリートなどがむき出しになり景観を害している。緑化工法を使うとか、工事後にゆっくり植物が被覆していく方法もあると思う。

【武藤メンバー】昨年度末の現場視察の際にも緑化工法について説明があったが、再度説明してほしい。

【事務局】緑政課が工事を行った葉桜の現場だが、吹付工事を行った後網を張ってツルを這わせている。吹付が段々と植物に覆われてきた。防災工事費助成は個人の方が費用負担して工事を行うので、強制はできないが相談時点で緑化工法や景観に配慮した工法にしてもらいたい旨周知していこうと思う。

【田宮メンバー】助成金として足りているのか？余りに少なすぎて個人の負担が大きくなると申請者の感じ方も変わると思う。

【事務局】以前までは助成金は最大 80 万円だった。令和 2 年度の池子 2 丁目の崩落事故を受けて民有崖の安全性が必要であると痛感し、近隣の市町（鎌倉市や横須賀市）の助成金の状況を踏まえて 200 万円に設定した。要綱は利活用の面でも伐採した木の処分も対象とするなどニーズに応じて令和 5 年にも改正している。昨年度の実績が 15 件と

あまり伸びなかったので更なる周知が必要かと感じている。

【田宮メンバー】維持管理について所有者の負担であることと、助成金があること、がけ崩れをなくしたいという本来の目的を説明したほうが良いと思う。

【木谷メンバー】防災工事費助成制度と急傾斜地崩壊対策事業の違いは何か。

【事務局】急傾斜地崩壊対策事業は公共工事であり、対象地が民有地である点は防災工事費助成制度と同じである。県が工事を行うもので市は受益者負担ということで2割の費用負担をしている。工事対象も家一軒ではなく五軒以上と言う決まりがあり、広域的な工事を実施できる。急傾斜地法に基づいて急傾斜地崩壊対策地域を設定し、重要事項説明にも記載される。土地の価値を懸念して煙たがる方もいるし、景観を心配される方もいる。そこは県と協力して事業の説明が必要と考えている。防災工事費助成制度は持っている崖を自ら対策工事を施したいという土地所有者を対象にしている。施主が公共事業者か土地所有者かという違いである。

【田宮メンバー】新しい様式での評価が始まったが、各事業の評価をするにあたり、所管課が反省した点、努力してできた点を教えてもらえれば評価がしやすい。件数だけだとすごく努力した結果なのか、足りない部分があったからその件数なのか。今後その説明をして欲しい。

【事務局】備考に記載するようにする。

【木谷メンバー】実績内容に書いてないが、都市整備課が行った積極的な対策はどのようなものがあるか。評価する上でそこも聞きたい。

【事務局】令和2年の崖崩れの事故を受けて毎年幹線道路沿いの崖について定期点検調査を実施している。その結果で民有地の土地所有者に防災工事費助成金や急傾斜地崩壊対策事業の説明を含めた維持管理の手紙を送付し、市有地であれば対策工事の検討を行い、予算化をしていくなど進めている。その他、市民からの情報提供を受けて所有者への通知をし、大雨の時にはパトロールを実施している。

【木谷メンバー】2029（令和11）年度の目標、累計182件は目標として高くないか？

【事務局】目標に対する評価が順調かどうかという話もあるので、懇話会が妥当と考える評価をしてもらえればと思う。ただ、計画期間6年間で182件だと年間約30件。

危険樹木の伐採も含めてなのでそのくらいの数を進めていかないと対策工事として間に合わないのではないかと考えており目標を設定している。昨年度が 15 件と少なかったもので周知等して本年度は目標達成したいと考えている。

【木谷メンバー】確かに目標に近づけば市内の危険箇所が減っていき安全な場所が増えるという意味だから目標達成できるよう勧めて欲しい。

### 下水道施設再整備事業（重点事業）

【船田メンバー】補足説明。令和 4・5 年度で下水道施設再整備の効率的な事業検討の一環として、葉山浄化センターにおける汚水処理の広域化・共同化を検討してきたが経済性を主な理由に断念せざるを得ず、現有地での建て替えを行う方針とした。当分の取組みとしては令和 3 年度に策定した基本構想を基に現有地での再整備に向けた基本構想のブラッシュアップを行う。

【田宮メンバー】再整備が必要となった要因はなにか？

【船田メンバー】現在の処理施設は 1970 年代から下水道整備に着手し、既に 50 年が経過しており、標準耐用年数を超えている。現状老朽化と併せて土台等の土木構造物の耐震性及び施設全体の耐津波対策がなされていない。市内に 1 つしかない重要な施設なので再整備が必要となっている。

【田宮メンバー】再整備はなるべく早くしなければならないのか。期限はいつまでか。

【船田メンバー】国のガイドラインを基に、本市としては 75 年を目安としており、その年数を迎える前までには終えたいと考えている。

【木谷メンバー】下水道事業の中でこの事業が一番大変な印象がある。ブラッシュアップの中で何が一番の問題か。

【船田メンバー】施設を使いながらの再整備になるのでスペースや仮設を加味した施工段取りや施設の切り替え等、敷地面積も限られているので施設配置や想定スケジュールの検討が大変なところかと思う。

### 合流改善対策事業

【木谷メンバー】集中豪雨などが増えている中、早く合流改善をしないとマンホールから

すぐあふれてしまう。現在はハイランドだけで進んでいるが他の地区はどうか。

【船田メンバー】ハイランドの他に桜山の一部に合流地区がある。ここは公共下水道整備前の古いもので、分流化するには構造上の課題もあり整備費用がかかる場所である。なお、合流区域は 112ha あり市内の下水処理区域面積のうち約 13%を占めている。ハイランド地区は 66ha、残り 46ha が桜山の一部にある。

## 基本目標（２）：バリアフリーのまちづくり推進

### 道路改良事業（重点事業）

【武藤メンバー】評価についてかなり前向きな表現だがどうか。

【事務局】踏切道の改良は難しく、一般的に誰が踏切改良を実施するかが問題になる。基本的には鉄道事業区域内なので鉄道事業者が行うが誰が費用負担するのか、道路法の認定がある踏切道であれば道路管理者である県や市が負担するのかなど。金沢新道踏切については JR 横浜支社が鉄道事業区域内の整備について費用負担をするという発言があった。そのため両者前向きに事業が進んだということがある。市は山の根踏切の廃止を背景として近隣住民の意見や JR は利用者の意見を反映し、歩車の分離や歩道拡幅に向けて県、市と JR の 3 者で前向きに動き、覚書を取り交わした。その時点で事業スキームに乗り、設計協議、近隣説明、工事に進んでいく道筋になった。そのため前向きな表現としている。

【木谷メンバー】踏切整備をしても県道の部分に横断歩道や踏切の溜まりスペースが狭く危険。県道側はどう考えているのか。

【事務局】ご指摘の通り踏切だけでは改善と言えない。以前から県道の拡幅について県への施策要望で出している。神奈川県横須賀土木事務所も都市計画道路用地なので拡幅に向けた近隣説明を行ったが、同意を得られず現在に至っている。県と市で協力して近隣住民への丁寧な説明が必要だと感じている。

【武藤メンバー】懇話会では事業進捗を評価する場であるが、どのような整備をするのかに非常に関心がある。意見を盛り込むタイミングはなくともそういう機会があれば教えて欲しい。

## 障がい者の住みよいまちづくり推進事業

【黒川メンバー】補足説明。バリアフリー懇話会とは公共工事を行うときにバリアフリーの考えに基づいた工事ができるかを懇話会の中で意見聴取し、工事に取り入れていくことを目的としている。具体例として多目的トイレがしかるべき場所にあるかどうか、車いす用のスロープが設置されているかどうかなどです。エレベーターが必要とされる施設ですぐに設置が難しくても、手すりやスロープを設けることで日常的な対応ができる場合もあり、面積の制約がある場所もあるので個々の事例で判断している。

【田宮さん】バリアフリーと聞くと、歩行困難な方をイメージしがちだがどのような障がいのある人を想定しているのか。

【黒川メンバー】身体障がいがある方、視覚障がいのある方、聴覚に障がいのある方などを想定しているが、公共施設も多用途の役割を持っているものもある。例を挙げると久木小学校は学校施設の他に多目的な用途もありそれぞれで必要とされるバリアフリー施設や位置付けが変わってくるため個々に判断している。

## 基本目標（３）：公共施設等の更新・統廃合・長寿命化の実施

### JR 東逗子駅前用地活用事業（JR 東逗子駅前複合施設整備事業）（重点事業）

【四宮メンバー】補足説明。工夫している点として市民参加の手続きの中で市民説明会、パブリックコメントを実施したが非常に重要な計画ということもあり、市民参加のワークショップを追加で開催し 30 名程度の方が参加された。いただいた意見を取り入れて基本計画を策定した。

【木谷メンバー】箱ものを作ると建設費が掛かるが、建設費は一度で済む。ただ色々な施設の機能を盛り込むとなると維持費も掛かってくると思う。全体を見て改善はされているのか。

【四宮メンバー】事業の目的の一つが施設の集約を行い財政負担を減らすためである。複合施設にまとめることで建物管理に掛かっていた費用を一つにまとめることになるので運営上のメリットを見いだせると考えている。ただ駅前に施設を設置することで会館時間の延長などサービスの充実を図ると運営コストが上がる部分もある。これからその辺りの検討も進めていく。原則の考えが施設面積の縮減や運営コストを複数

だったものを一つにまとめることで削減することなのでそういった観点で検討を行っている。

【木谷メンバー】複合施設ができて既存の施設は残っていると思うが、どのように活かされるのか。

【四宮メンバー】方向性としては公共施設の総面積の縮減を目指しているので、集約後、そこで果たすべき行政目的がないものについては処分が原則と考えている。ただし、沼間コミュニティセンター等、建物の耐用年数までの残存年数がまだある施設については、有効活用を検討する可能性はあるが、職員を置いてランニングコストがかかるような運営形態は目標に沿わないと思う。

#### **基本目標（４）：歩行者と自転車を優先するまちの推進**

##### **歩行者と自転車を優先するまちの推進**

【関メンバー】安全面で事故の減少も重要な指標だと思うがデータは把握しているか。

【青柳メンバー】事故の件数は、警察から公表されているものがあるが発表が遅かったり、高齢者の事故、自転車と歩行者の事故など希望する項目ごとのデータが取れない状況である。県警の取りまとめている項目と市が求めているデータに相違があるので目標には取り込みにくい。

【関メンバー】自転車のマナー悪化が目につく。マナーの徹底も事故率につながっているのではないか。どのように考えているか。

【青柳メンバー】マナーの啓発活動は逗子警察と協力してかなり行っている。啓発だけでは進んでこなかったが、本年度からは道路交通法の改正があり、自転車にも違反をとるようになった。それに合わせてキャンペーンなども打ち出していくと思う。

【田宮メンバー】カーフリーデーとは？

【青柳メンバー】歩行者と自転車のまちを考える会との共催のイベント。駅前でブースを設けて自転車の安全活動について啓発グッズの配布やアンケート、意見聴取を行っている。

【田宮メンバー】対象は車であるのか？

【青柳メンバー】10年程前までは銀座通りを通行止めとしたイベントを実施したが、現



在は警察の許可なども厳しくなっており定期的の実施するのが難しい状況である。まずは啓発運動から始めようということで継続してカーフリーデーという名で行っている。車と自転車を対象と考えている。ただ、問題点として自転車と歩行者の事故が多いが、歩行者の取り込みがうまくいっていない印象。なので「自転車と歩行者」対「自動車」と考えている。それに加えて新しいモビリティ（電動キックスケーター等）に対しても対策を取らなければならない。走行だけでなく停める場所についても問題がある。そこで現在は車に特化して台数を減らす方向へ向かっている。

【関メンバー】 マラソンランナーが土日に多い。車道を走っている場合があるが、安全と考えるとルールがあっても良い気がする。

【青柳メンバー】 走っている方までは議論されていない。現時点でルールはなく、考えが及んでいない。

【田中メンバー】 制限速度のない生活道路等の制限が 30 km/h となったと思うが、電動アシスト自転車だとスピードがかなり出る。必ずしも自転車と歩行者が善人で車が悪者かと疑問に思う。自転車にも車と同じく法令が適用されることを認識してもらうよう周知するしかないと思う。

【武藤メンバー】 昔から「歩行者」対「車」という構図があったが、色々なモビリティ（電動キックスケーター・電動アシスト自転車等）が出てきて原付並みの速度が出るものもある、時代が変わってきているので事業進行の評価とは別に事業自体の組み立ても変わってくる気がする。

## 公共交通拡充支援事業

【木谷メンバー】 コミュニティバス等とは今の循環バスとは別か？

【青柳メンバー】 循環バスはバス会社が営業しているもので、ここで示しているコミュニティバスは別である。循環バスの延伸やコースの変更もできないが台数の確保や乗り入れができない地域もあるので別の方法でと考えている。

【田宮メンバー】 京急バスは公共交通に含まれるのか。

【青柳メンバー】 バス・電車・タクシー以外のそれらを補完するようなものを公共交通としていて、自治体が設置するコミュニティバスやグリーンスローモビリティなどす

べてを含めて地域に望ましいものを導入する方向としている。

補足で説明すると、令和6年度にグリーンスローモビリティの実証実験をしたく予算要求したが予算修正を受けた。市長ヒアリングでも議題に挙げているが、この後どう進めていくかを議論した。どこで、どのようなものが、どの程度必要なのかをレベルを合わせて考えなければいけない時期に来ているということで現在包括支援センター、社協、個別の高齢者サロンなどへヒアリングを行っている。導入しやすい地域からではなく市全体でレベル感を合わせて令和7～8年度に地域公共交通計画を策定するための準備と調整の段階である。

【木谷さん】 デイサービスの車も多く走っていると思うが、棲み分けはどうなるのか。

【青柳メンバー】 デイサービスの車は朝夕の送迎に車を使用しており日中は車が空いていると思うのでその時間帯の活用も公共交通に含まれてくると思う。誰と話をしてどこをマッチングさせるのかをこれから考えていく。そこも含めての公共交通の補完を考えていく。

【田宮さん】 シェアサイクルは歩行者と自転車を優先するまち推進事業に入るのか。

【青柳メンバー】 シェアサイクルは公共交通に含めていくが、現在は実証実験の段階である。事業者は変わったが継続されていて、逗子市の利用率は高い。なぜ実証実験のままなのかというと近隣市町が実証実験としていて、もし正式な形にすると企業の利益を追求することになるので自転車設置希望地と事業者の利益が見合わないために設置できないことや事業者が設置したい場所に費用が発生し公共施設ならば請求しなければいけなくなる。莫大なお金になるので事業が先行かなくなってしまう継続できない可能性があるので近隣市町も含めて実証実験を継続している。計画策定の時にはメンバー選出もバランスよくするために時間がかかると考えている。

【木谷メンバー】 色々な公共交通の導入で乗りなれていない車両を運転する人が増える。新しい形となれば危険な車が増える印象もあるのでその辺りも考慮して事業を進めて欲しい。

【武藤メンバー】4つの基本目標の評価が終了した。メンバーの方々のご協力に感謝する。

## (2) その他

【事務局】本日いただいた意見をまとめて、事業進行管理表を作成してきたものは概要と併せて送る。第2回の懇話会については、11月に開催することを考えているが、本日意見を伺えなかった重点事業以外の事業について意見をいただければと思う。また、日程は通知する。